

自然災害等を想定した歴史的町並みの維持保全が果たす防災機能についての検討

<調査概要>

■調査実施地域：三重県志摩市

■調査実施者：国府地区まちづくり協議会

- ・南海トラフ等による大規模な地震、津波が予想されている国府地区において、歴史的町並みや歴史的建造物の維持保全が防災面からみても役立つかどうかを町の防災に関する知見や地域住民へのヒアリング、建物調査等によって検証し、防災の観点から今後の歴史的町並み維持保全のあり方を検討する調査を実施。
- ・調査の結果、歴史的町並みのうち「榎垣」等が防災機能を果たしていることがわかったが、歴史的建造物においては防災機能をもった特徴を見出すことはできなかった。しかしながら、歴史的町並みを構成する多数の要素が複合的に絡み合うことで地域の防災力を高めていることが考えられたため、地域コミュニティの強化を図ることで歴史的町並みの維持保全を推進し防災へとつなげる仕組みを整理した。

<調査内容>

～歴史的な町並みが果たす防災機能の実態調査と効果検証～

- ・国府地区住民へのヒアリング
- ・国府地区(長老)ヒアリング型アンケート など

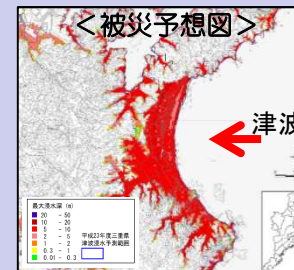
- ・「さす」「榎垣」「屋敷構え」：日常や台風時の強い潮風や海風への効果
- ・「屋敷構え」「歴史的建造物」：地震時の建物の破損への効果
- ・「榎垣」：日常生活の中の火災への効果
- ・「地形」「土盛」「榎垣」：台風や津波時の浸水への効果



これらが地域生活を守る上、必要かつ重要なもので、地区特有の防災、減災に役立つ機能であると考えられる。

ケーススタディによる被災想定

- ・人的被害(死者)
- ・最大値：南海トラフ理論上 最大クラス：287人
- ・最小値：東海地震：0人
- ・建物被害(全壊・焼失)
- ・最大値：南海トラフ理論上 最大クラス：1,150棟
- ・最小値：東海地震：213棟



防災効果を高めるには地域での連携体制の構築が必要

～歴史的町並みの維持保全のあり方～

特出した防災機能は見つからなかったものの、住民を含めた歴史的町並みを作り出す要素が複合的に絡み合っただけで地域の防災力を生み出してきたことが国府地区の強み。

住民の声としても、地域で連携して町並みを守っていききたいとの意見が多数あった。



・これからの歴史的町並み維持保全のあり方

- ①協議会を中心とした歴史的町並みの維持管理体制を構築
- ②子どもや若者に国府の歴史的町並みの良さを伝える
- ③結びつきの強い隣家の関係を中心とした見守り体制の構築
- ④地域での勉強会実施などまちづくり活動の拡充



地域コミュニティの強化によって歴史的な町並みの保全につながる結果として地域の防災機能の強化につながる

～歴史的建造物をもつ防災機能の実態調査と景観的価値を損ねない機能補完手法の検討～

国府地区における歴史的建造物の特徴

- ・中二階
主屋根と下屋庇の間に小壁を持ち、小壁や妻壁に開口部を持つなどの用途性を伺わせる構造。
- ・出囲い
切妻上部三角部分の貼り出し囲い。
- ・鎧囲い
「刻み囲い」とも呼ばれ、意匠性の高い刻み押し縁による下見板張りのこと。
- ・コマ入り
南側に妻面を向けた妻入り形式の呼称。



歴史的建造物の実態調査

- ・耐震性に関わる常時微動調査
- ・建物の樹種・劣化・変形調査 など
- ・防災機能に繋がる特徴的な構造は確認できず、耐震性能の弱さが判明
- ・防火性能の弱さや維持管理不足から老朽化が進んでいることが判明。

外観を損ねず耐震・防火性能を高める必要や維持管理サポート体制の構築が必要

調査結果を地区住民に説明